

新潟シティガイド

NO. 41号

《編集発行》

新潟シティガイド

《発行人》

神田 剛

まちを知るワクワク感を
あふれさせる



にいがたユニバーサル
まち歩き 事務局長
中村 美香

私ども「にいがたユニバーサルまち歩き（略称：NUWニュー）」は現在、会員二十二人という小さな団体です。みんな陽気で笑顔が絶えません。活動内容は、聴覚障がい者、視覚障がい者、肢体障がい者が、それぞれの障がいに応じて必要な援護や介助を受けながら、障がい者メンバー自らが「まち歩きガイド」となり、新潟のまちをご案内するものです。二〇二〇年九月に設立し、まち歩きガイドのスキル向上に励んでいます。私どものガイドは、各自の

体験談やまちに関わるエピソードを中心に案内を行います。手話表現や音・匂い・手触り・足触りなど、普段自分たちが暮らす際に使っている感覚を参加者にも同じように使ってもらえるような語り掛けを行います、ご案内いたします。

私どものまち歩きは、障がいの有無のみならず、障がいの種別ごとに分けずに、みんなと一緒に歩くことを大事にしています。普段の暮らしの中で障がい者と長時間一緒にいることや、会話をしたり交流したりする機会はそう多くはないでしょう。だからこそ、二時間程度ですが一緒に歩くことにより、障がいを持つガイドであることを忘れ、社会の見え方もまちに対する感じ方も参加する前とは異なり、それも多くの場合は、より良い印象に感じると思います。ぜひそのワクワク感を楽しんでほしいと考えています。正直にお話ししますと、私どものガイドは歴史と建築物

- ・聞いたことは忘れる
- ・見たことは思い出す
- ・体験したことは理解する
- ・発見したことは身につく

の説明が大変苦手です。そこで昨年は、まち歩きガイドの大先輩である新潟シティガイドさんにご協力とご助言を求めました。八月にガイド研修でご指導いただいた当初、新潟シティガイドさんは、私どもを真正面から受け止めつつも、かなり困惑されているように感じました。ところが、一緒にコースを歩いているうちに、その不安はほぼ消え、フラットな関係で私どもの身になって貴重なご意見をいただきました。心からのエールを受けることにより、私どもは自分たちなりのオリジナルティのあるガイド方法や内容を創り上げていくことができました。



本番のまち歩き終了後、新潟シティガイドのお一人からの感想を抜粋して記します。「一緒にガイドをさせていただき、本当に良い体験をさせていただいたと思うっております。特に、皆様が事前の資料をよく集められて分かりやすくまとめられていたことには、すごく感心いたしました。参加者全員が離れたところからでもよく見えるように拡大した説明文やイラスト・画像を駆使した資料は圧巻でした。」との褒めの言葉を頂戴しました。



また、新潟シティガイド代表の神田さんからは事務局に対しても、本当に気持ち温まるお言葉で励ましやご助言を頂き、どんなに心強く感じ

たかしれません。私どもの活動は始まったばかりですが、新潟シティガイドさんとのような関係ができたことも私どもの活動に大きな意味があったことだと感じております。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。



スペシャルで
まち歩き



若杉 明

中央区地域課主催のイベントが、令和三年十月九日(土)二十五名の募集に対して、百四名の応募者の中から抽選で当たった方たちが参加して実施されました。毎年三月に行われていましたが、コロナウ

イルス感染状況により二年半ぶりに再開です。



ウオーターシャトル万代シティ乗場からスタート。さっそく「ベアトリス号」に乗船、日根中央区区長の挨拶に始まり、関ガイドの案内を聞きながら、秋晴れの下、マンション群や県内五局のテレビアンテナ塔、やすらぎ堤で遊んでいる家族連れ、サイクリングを楽しんでいる人々たちを眺めながら、県庁付近で折り返し、あつという間の一時間でした。



船内でじつとしておられずデッキに出て景色を楽しんでいた方も大勢おられました。みなとびあで下船後のまちは歩きは、前回までは沼垂地区でしたが、今回は下町地区です。時間の関係で、日和山を除いた「にいがた湊・歴史散策」コースを順回り・逆回りに分かれてのご案内。パウースポットの湊稲荷神社の願懸高麗犬・金刀比羅神社の足止め狛犬・開運稲荷神社のこんこん様に願い事をされ、地元風習を楽しんでいただけたと思います。

早川堀通りでは、「この通り何かスツキリとした感じがしませんか」と、お客様に問いかけると、お互いの顔を見合わせながら「？」という顔をされました。「電線・電話線が地中に埋められて、電信柱が無くなったせいですよ」と説明すると皆様納得。何気なく歩いている道も、新鮮に感じられたのではないのでしょうか。ゴールのみなどびあでは、新企画の民謡鑑賞です。会場は三月二十一日までカーブドツチが営業していた旧第四銀行住吉町支店の一階です。雰囲気は最高。『こはく会』様の【佐渡おけさ・相川音頭・新潟小唄・新潟甚句ほか二曲】

のご披露があり、踊りに合わせた衣装での登場や、新潟甚句三十七番までの歌詞の配布もあり、民謡の奥深さを楽しめたのではないのでしょうか。踊り手として出演され、シテイガイドの宣伝をさりげなくしてくださった小野塚ガイドをさせていただき本当にありがとうございました。



新潟小学校五年生の

学習活動に参加して



二瓶 芳枝

新潟小学校では各学年で地域の活性化に取組んでいる方々の講座を設けて、地域学習をしています。この度、五

年生の学習『古町・本町、お宝再発見』歴史・文化・伝統の視点から地域の宝を見つけよう』というタイトルの下、児童たちが調べ、まとめた事の途中経過の発表会があり、当会から三名(本田・小野塚、二瓶)が参加し感想やアドバイスを述べました。

小野塚さんと本田さんの感想もお聞きしていますので、ご紹介します。子供たちの目はなんとキラキラ光輝いているのだろう！あの好奇心と未来をいっぱい持った目で見られると、新潟もまだまだ大丈夫と確信する。二年前、新潟小学校の子供たちと新潟町の事を学習した時も感じたことだが、この子供達は勉強熱心で探求心が強い。大人では考えられない事を質問してくる。発想の転換、柔軟な考え。今回も子供たちから学ばせてもらった二時間であった。



第一部のテーマ別発表は、発表する児童も聴く児童も真剣、シテイガイドも真剣。私の感想は、「難しい言葉をよく覚えたね、丁寧に説明できたね、クイズ形式は楽しめていいね、お話しする時の姿勢がちゃんとしていて気持ちが良かったです。等々」

仕上げ発表でどんな事を話してくれるのか、今からワクワクしている。(小野塚昭美)

第二部は私達ゲストティーチャーが各自の資料でテーマに沿った話をしました。児童たちにとっては昭和も江戸時代も同じ次元、しかも見たことのない、聞いたこともない言葉が出てくるわけで、そこは画像資料を用い説明しました。調べた事と合点しているところとウンウンと頷いて、そうい

新潟小学校からの依頼で授業に参加しました。内容は新潟小学校から中条小学校の生徒へ新潟の町を紹介する事前

学習で、私達の役割はそのアドバイザーでした。今の小学生はタブレットを駆使して情報収集しています。内容が仔細になりすぎるように感じて、「ポイントを決めて大きな声でゆつくりと話してください」とアドバイスをしました。

(本田富義)

第六回観光ボランティア養成講座



倉地 一則

新潟シティガイドは、新潟市主催の『観光ボランティアガイド養成講座』を修了した人達がガイド活動している団体です。私は平成二十九年度開催の養成講座を終えて参加した五期生ですが、以来四年間、新型コロナウイルス感染の影響もあって養成講座は開催されていません。昨年春からシティガイド内で【運営委員会】を設けて、新潟市と共に講座の進め方を検討してきました。養成講座は、新潟市と新潟シティガイドが連携して開催することになっています。

まず、全市を対象に観光ボランティアになりたい人や興味のある人などを募集し、市の歴史や文化、観光資源などの基礎知識の他、マナーやおもてなしの心などを学ぶ観光案内基礎講座を、市が主催して開催します。

基礎講座を修了した後に、新潟シティガイドへの入会希望者を対象に、下町・西大畑・白山・沼垂のエリアで、実際にコースを歩いて学ぶ、ガイド実践や新たなコースづくりなどを体験する観光ガイド実践研修を、シティガイドが主催して実施します。



新型コロナウイルス感染拡大が続いて、基礎講座がいつ開催されるか分からない現状の中で、運営委員会は実践研修の準備作業として、全エリアで標準ガイドのポイントを作成することを決め、会員各

位の協力を得て完成することができました。

作成の過程で、今まで知られていないことが判ったり、逆に誤りが見つかることもありました。今までは他のエリアのコースは知らないことが普通でしたが、ガイドのポイントを共有することで、コースのテーマと見所が判り、自分のガイドに活かすことができるようになりました。

新人には少し難しいかもしれませんが、会員全体のステップアップにつながる資料ができたと思います。

今年こそ、六期生を迎えて、ポストコロナ時代へのおもてなし体制の充実に努めたいと思います。観光ガイドに興味のある方は、新潟市の観光案内基礎講座の募集が始まりましたら、是非応募してください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

下町エリア参加型研修



島垣 二佳子

下町エリアではエリア長の発案で、当該コースの調査・

資料収集により会員のガイド知識と技術の向上を目指し、その内容をガイドの「引き出し集」として活用することを目的に昨年十月三十一日、十一月二十五日、二回の研修を実施した。両日とも、四〜五人のA〜Cグループに分かれて話し合いが行われた。

☆深堀ガイドポイント（既存のガイドポイントには載っていない）を伺いました。

Aグループ

・北前船について
テレビ、新聞の取材対応資料「新潟では『北前船』とは呼んでいない」から始まり、物資と文化を運んだ、海の大動脈であるにも関わらず、戦前までは知られていなかった。広辞苑の二版に初めて載り、司馬遼太郎の小説（菜の花の沖）で知られるようになった。

・民謡について
新潟県は、数、内容の豊富さで民謡の宝庫である。日本海と河川がはしり、様々な地域との文化の交流点であったことが理由だ。
また、『新潟甚句』は江戸時代から伝わる盆踊り唄で、太鼓を用いず樽をたたくのが特徴だとわかりやすく解説していただいた。

Bグループ

・『想い出の古町』小柳俊郎（詩人、画家）音数律誌より。

下町横七番町から白山神社への道すがらを、戦前にそこで育った方の思い出巡りを七五調でテンポよく綴られていた。提供いただいた資料は、想い出の各所の絵、写真、地図、解説等であり、提供者の実体験がまた面白い。

・仏教の歴史と宗派について
『原始仏教』は古代インドに興り、『大乘仏教』が中国・朝鮮を経て日本に伝来した。聖徳太子が仏教を根付かせ、奈良時代で学問仏教『南都六宗』が栄えた。平安末期から鎌倉時代にかけて現在の主な宗派が成立した。

膨大な調査資料で、自身の宗派を読むだけでも興味深いものがある。

Cグループ

・『港湾事務所発行の浚渫・埋立作業地図』から
新潟港に流れ来る大量の土砂は、年間およそ八十万m³で東京ドーム三分の一または、新潟県庁舎三杯分だそうだ。その土砂は、新潟空港沖の滑走路埋立や河口付近の埠頭埋立に活用されている。

・『みなとびあ建設以前の住宅地図』から
舂川両岸の道路幅は現在より狭く、工場、官舎や一般住宅の密集地域だった。

以上、深堀ガイドポイントはこの紙面においては概略を



【地域応援事業を
利用してのお弁当】

お知らせすることしかできない。資料については、下町エリア長に問い合わせいただきたい。先輩方の知識の引き出しは計り知れない。少しずつでも近づきたいものである。それから、筆者のグループで話し合われたガイドとして心掛けていることを箇条書きにする。

- ①立ち寄り場所を知る。
- ②その立ち寄り場所を自分が理解する。
- ③自分の興味を調べる。しかし、参加者の興味となると難しい。
- 例1…他者から見た新潟を参考にする。(十返舎一九が見た新潟等)
- 例2…他地域ガイドからの学びを、新潟ではどうだったのかを調べる。
- ④まち歩きに参加された方と仲良く楽しく!

最後に最大のポイントであった。ガイドの研修はこれからも続きます。昼食をはさみ、研修二日目の午後は八幡川八百屋の地蔵と五十嵐邸(元遊郭)見学を実施した。

コロナの感染拡大とガイド活動の経過について



神田 剛

コロナの感染拡大が始まってから二年余りが経過します。この間の当会のガイド活動について簡単にまとめて見ました。

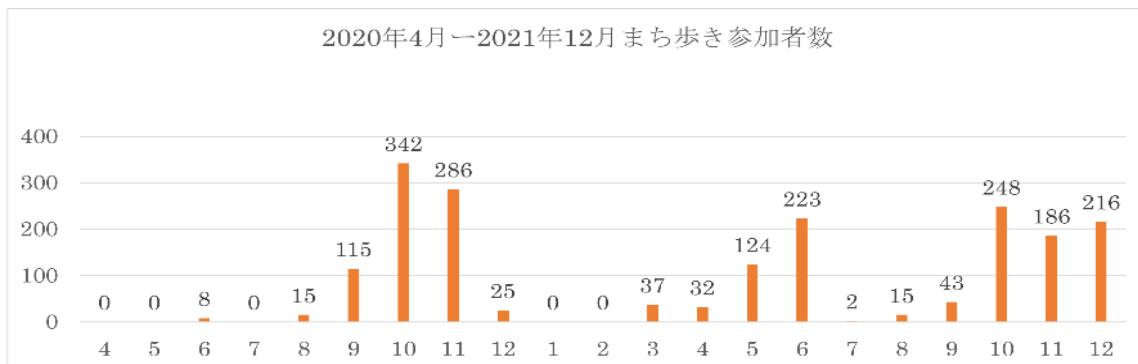
*二〇二〇年度は一月からのコロナウイルスの感染拡大により、三月からのガイド活動が全面中止となる波乱の幕開けとなりました。

*二〇二〇年九月に県内容客に限定した活動が再開されましたが、その後も感染の拡大により活動に大きな影響がでることとなりました。

お客様が増えたと思うと緊急事態宣言などが出て活動が中止となることの繰り返しでした。

*また、当会のコロナ禍における活動への取り組みについては、二〇二〇年八月に感染防止のためのガイドラインを策定し、九月以降の活動については、ガイド活動への参加についてガイド各自の意

思確認を定例会毎に行ない、その結果を会の活動内容に反映させてきました



コロナ: 緊急事態 GoToキャンペーン 東京都など各地で緊急事態宣言 県・市 警報・特別警報

ガイド: ガイド活動全面中止 県内容客へのガイド再開 上記による休止有 県外客再開



広報紙 Back Number



Instagram

今後のコロナウイルスの収束について予見するのは困難であるため、これまで同様、感染防止策を取りながら、感染の状況に合わせた活動を行いたいと考えています。なお、この記事を書いている二〇二二年三月初旬の状況は、昨年十一月に県外客のガイド、『予約のいらないまち歩き』を再開したもの、オミクロン株の感染拡大により、新潟県を含む十三都県に『まん延防止等重点措置』が適用されることとなり、ガイド活動が全面的に中止となっています。『まん延防止等重点措置』は三月六日に解除

編集後記

コロナ禍での活動は、ガイド全面中止や県内在住のお客様のみガイドなど、その時々感染状況により、会員と相談しながらの取り組みです。その中でも、『にいがたユニバーサルまち歩き』の皆さんとのまち歩きや学校関係の学習活動への参加などは、今後のシティガイドのまち歩きのお客様に対応する力の幅が広がったと思います。

ガイド活動が制限される中、各エリアの研修、またガイド養成講座の準備など、内部活動は進行中です。大変な一年を過ごし、様々な新しい課題にもぶつかり、試行錯誤の日々が今も続いています。春を迎えて新しいスタートラインにたつと、再び走り出す気持ちがいってきます。

広報紙での活動報告は、SNSでの発信に変えていきます。これまで、広報紙作成にご協力いただいた方、手にとっていたいただいた方、お礼申し上げます。今後も会員の皆様のご協力をいただき、活動を発信していきたいと思えます。

広報 佐藤祐美子